

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



地域の皆さんが安心して新年を迎えられるよう、西脇市消防団が年末警戒を実施。団員の皆さんが分担して、地域をパトロールしました。(12月28日～30日、市内各所)



篠田いちご園から招待を受けた芳田小学校の1年生が、イチゴ狩りを体験。この日を楽しみにしていた児童は、甘くておいしいイチゴに大喜びしていました。(1月10日、篠田いちご園)



大人への仲間入りを祝う昔の「元服」などにちなんだ「立春日」に、中学3年生が出席。西脇市子ども会指導者連絡協議会が昭和38年から開催する伝統行事です。(1月19日、市民会館)



市役所1階の市民ギャラリーで、西脇高校生活情報科3年生が、播州織を使用した妖精がテーマの衣装や、さまざまな洋服を着たりカちゃん人形を展示。(3月31日まで、西脇市役所)

地域発展と活性化へ誓い新たに

(1月7日 西脇ロイヤルホテル)



各種団体や地域の代表者など約150人が参加。西脇市のさらなる発展を誓う

西脇市と西脇商工会議所は「新年に集う会」を開催し、出席した市内の各種団体や地域の代表者ら約150人が新年のあいさつを交わしました。片山市長は「建設が進む新しい市役所やまちづくりなど、ワクワク・ドキドキする取り組みを進めたい」と年頭のあいさつを述べました。

給食で学ぶ防災—阪神・淡路大震災から25年

(1月17日 しばざくら幼稚園、各小中学校)



自分で握ったおにぎりを頬張る子どもたち。当時の被災者の生活に思いをはせる

阪神・淡路大震災を風化させないよう、各学校園では避難訓練などを実施して日頃の備えを再確認しました。また、学校給食では災害時に水がない状況を想定し、ビニール袋を使用し、たおにぎり作りを挑戦。炊き出しでよく食べられる豚汁とともに、子どもたちは「食」でも防災を考えました。

生活習慣の改善で健康づくりを

(1月19日 市民会館)



田村准教授がクイズや実践例を交えながら楽しく健康づくりを伝授

「良い眠りで脳・体・こころを健康に」と題し、広島大学大学院の田村典久准教授が、睡眠を中心に生活習慣を整えることで健康を目指す方法について講演しました。講演会では、快眠を得るために正しい睡眠の知識等を身に付けること、睡眠環境を調整することが効果的であることが紹介されました。



(左)席上でプロ1年目を振り返る甲斐野選手 (右)片山市長が「西脇市スポーツ賞」と記念品の播州織オーダーメイドシャツを贈呈



本市出身でプロ野球・福岡ソフトバンクホークスの投手として活躍する甲斐野央選手が、片山市長を表敬訪問しました。甲斐野選手は黒田庄中学校卒業後、東洋大学附属姫路高校、東洋大学を経て同球団に入団。プロ1年目の昨シーズンは開幕戦での初勝利を皮切りに、13試合連続無失点のプロ野球記録を樹立したほか、26ホールド・8セーブを挙げてチームの日本一に貢献しました。また、市では昨年11月に開催された国際大会「プレミア12」での活躍をたたえて「西脇市スポーツ賞」を贈呈。片山市長が「プロ2年目の活躍も期待しています」と述べると、甲斐野選手は「育ててもらった大好きなふるさとで、賞をいただけてうれしい」とあいさつ。新シーズンに向け、「50試合以上に登板して、防御率を3点未満にしたい」と目標を語りました。

ソフトバンク・甲斐野選手に「市スポーツ賞」

(12月26日 西脇市役所)



完成を祝って関係者らがテープカット



地域の集会、憩いの場として活用予定の和室や洋室

津万地区自治協議会が新たに「にぎわい創出拠点」を整備し、オープニングの式典やイベントを行いました。拠点は地域課題の解決や地域コミュニティの活性化を目的に、木造2階建ての古民家を県や市の補助金を活用して改修。多目的に利用できる和洋室のほか、

地域の「にぎわい創出拠点」がオープン

(1月13日 津万地区「にぎわい創出拠点」)

料理教室や加工品製造のための調理室、コンサートなどができる離れ座敷等があり、多世代の交流を深めながらまちづくりを進めます。オープニングには多くの人が集まって内覧するとともに、特産のイチゴを使ったスイーツを堪能するなどしてにぎわいました。

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで(市役所内線207)。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中!